

1941年6月22日対ソ奇襲攻撃の際のヒトラー演説（A 4, 7枚）

ユダヤ＝ボルシェヴィズム打倒戦略の正当化

イギリスが、**ドイツ包囲網**を築いた。

1939年夏、イギリスは、ドイツに対する包括的な包囲網政策を繰り返して**再び意図的な絶滅政策**を始めた。この目的のための行ったそのキャンペーンは、ほかの諸民族が脅かされていると表明し、**世界大戦以前と同じように**、イギリスが他の諸民族にイギリスの保証と支援を与え、再びとらえてドイツに対して進撃を始めた。

1939年5月から8月、リトアニア、ラトヴィア、フィンランドやウクライナが直接に脅かされているとの主張を広め、ドイツの侵攻が迫っていると**ドイツ脅威論を流す**ことに成功し、**新たなドイツ包囲網を構築**した。さらにそれを越えて、「**東方の最強権力**」をわれわれの国境に関する厳粛な声明によって、落ち着かせた。

対ソ攻撃は、「私にとって苦しく難しい」ものであった。ドイツ民族のだれ一人として、ロシアの諸民族に対する敵対的感情を抱いていない。**この20年超の間、「モスクワのユダヤ-ボルシェヴィズム権力所有者」が、ドイツだけでなく全ヨーロッパに放火しようと努めてきたのだ。**ドイツはナチズム世界観をこれまでロシアに運ぼうとしたのではなく、逆に、**モスクワのユダヤ-ボルシェヴィズム権力所有者が執拗に我々やその他のヨーロッパ諸民族に彼らの支配を強制しようと企ててきたのだ。**しかも、精神的にだけではなく、軍事権力的にも。